

なすのマキバカスミカメ(新寄主)

令和6年9月及び令和7年7月に石狩管内においてハウス栽培のなすでハウスの一部に展開した葉に大きさ数mm程度の穴が点在する症状が確認された。当該ハウスにおいて、なすの茎葉に多数のカスミカメムシ類の成虫および幼虫が確認された。採取した成虫及び飼育し羽化させた個体については、小楯板にY字の白い紋があるなどの外部形態の特徴からマキバカスミカメ *Lygus rugulipennis* Poppius と同定された。また、採集した個体をなすに放飼した結果、穴が空く症状が再現され、本種による食害であることが確認された。本種は道内において、はくさいやスイートコーンなど様々な作物への寄生が確認されている。

(中央農試・石狩農業改良普及センター・住友化学(株))



左上：マキバカスミカメ成虫、右上：ナスを加害するマキバカスミカメ、下：被害葉
(いずれも中央農試 佐々木原図)